

松江一中だより

令和5年7月号
文責 池田 浩
校長

令和五年度の一学期終業式を行いました。保護者の皆様方には一学期間、本校教育についてご理解とご協力をいただきましたことに心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が五類に位置付けられ、学校の教育活動も徐々に活発になってきています。学校では「基本的にマスクをせずに学校活動に取り組む。しかし、様々な理由から個人の判断でマスクを着用してもかまわない。」としています。

しかし、概ね七〜八割の生徒が教室の授業でマスクをしていますし、地域の会議に出かけても多くの方がマスクをしておられます。個人の判断に委ねるといふ指針から、生徒には、着脱について指示をしていません。今後、マスクを使用しないで過ごすことができる、世の中の雰囲気・人々の心理状態になつていくことを願っています。

夏休みが始まります。この期間には自己の目標を明確にして、新しい自分の発見を試みてほしいと願っています。



授業公開日に来校いただき、ありがとうございます。

五月十四日(日)に授業公開を計画しましたところ、たくさんの方の保護者の皆様においでいただき、授業の様子を参観していただきました。ありがとうございます。これまで長い間授業参観を見合わせてきました。全学級を同時に公開すると混雑を招くことが予想されたため、午前と午後の二回に分けて行ったにもかかわらず、駐車場とした校庭は車でいっぱいでした。雨の中、駐車や通行にご不便をおかけしましたが、こうして来校いただけることを大変うれしく思いました。感謝申し上げます。



学級目標プレゼンテーション

五月二十九日(月)から三十一日(水)までの三日間に、学年ごとに学級目標プレゼンテーションを行い、各クラスで話し合い決定した学級目標について発表しました。

私がとても気になった



学級目標は「スイッチ」です。誰にでも、自分には気の付かないところにスイッチがあり、友達同士や学級のみなどお互いの「やる気スイッチ」を探して押しあげようというものでした。自己主張があつて主体的なこともいいことですが、今、一中に必要なのは、相手を意識して行動しようとする気持ち、思いやりをもって相手に接する気持ちであると思います。ぜひ、お互いのスイッチを探して、必要な時には後押しをするなど、お互いに高めあうことのできる学級を目指してほしいと思います。

各学級の目標は [こちらから](#)



救急救命講習



五月二十九日(月)、生徒が下校した後の放課後に、職員は救急救命講習を受講しました。今年度の講師を山陰労災病院クリティカルケア認定看護師の原田さんにお願ひしました。

心臓突然死は年間七万人。いつでも、どこでも、誰にでも起こることなので、年一回のこの講習は欠かせません。胸骨圧迫とAEDの使用方法を練習した後は、气道異物除去についてもレクチャーしていただきました。



六月一日(木)・五・六校時、島根被害者サポートセンター、松江警察署のご協力で、**命の大切さを学ぶ教室**を行いました。

広島市からおいでいただいた三浦さんは、ご自身の息子さんを飲酒運転の自動車との衝突事故で亡くされました。

理不尽な交通ルール違反によって、家族を亡くすなどあつてはならず、とても無念であつたらうと思つと、胸が苦しくなりました。

交通事故はどんなに自分が気を付けていても、相手の不注意などで起こってしまいます。だからこそ、一中生の交通ルールを守る姿勢が必要なのです。自分を守り相手を守る行動が必要です。

この度は、三年生は体育館で直接話を聞き、一・二年生は学級でインターネット配信を視聴しました。

三年生は体育館で、一・二年生は各教室でとても真剣に話を聞くことができました。

前日の命の大切さを学ぶ教室を受けて、六月二日(金)に**交通マナーアップ指定校スタントマン実演会**を実施しました。昨年からの日を楽しみにしていました。自転車がかかぶつかつて体が放り出されたあとの衝撃は並大抵のものではありません。残念ながら雨天のため三年生のみ体育館で実演を見ることになりました。本日の実演会に関わってくださった、JAの皆様、松江警察署の皆様、スタントを行ってくださった皆様ありがとうございました。



松江ブロック大会・陸上大会について

六月六日(火)に行われた体操大会を皮切りに、令和五年度の松江ブロック大会が行われました。

結果は下のQRコードから「大会等の結果」のサイトにアクセスするか、ホームページの「コンテンツ」↓「大会等の結果」からご覧ください。



最終日には、野球・サッカー・男子バスケットボールがそろって優勝を飾るなど、選手の普段の練習の成果が発揮された大会であつたと思います。

惜しくも県総体出場を逃したチームもありましたが、近くで応援をしていると、プレーしている選手の息遣いが聞こえてくるようで、チームや個人のこれまでの歴史や物語を感じる事ができた気がします。誰もがこの瞬間にかけて、練習をしてきたことがわかる、感動的な大会でした。



六月十三日(火)に松江市立第一中学校の学校運営協議会が開催されました。

運営委員の皆様は委嘱状を交付し、皆で松江市教育長のメッセージを視聴しました。

その後、校長の学校経営方針を説明しました。

■今年度の重点として、全校で「相手のことを意識して(思いやりをもって)聴く」を徹底する。

〈委員より〉

※「大切にすることを」「リスpektする」と考えてほしい

※本当の聴く力のためには、「発信する」「自分で話す」ことも併せて大切にしなければいけないのではないかと

※聴くことでどう思うか、自分の考えを持つことができるかが鍵

■昨年度のアドバイスをを受けて、取組を進めた「働き方改革」を重点に加える

〈委員より〉

※時間外勤務をしない日を設けてはどうか

※職員の意見を聴く

※部活動の指導を複数顧問が交代制(ローテーション)で行うことはできないか

※フレックス勤務制を導入できないか

■学校(校長)が解決したいと思っていること、課題に感じていることを聞きたいという委員の意見に対して

〈校長より〉

※遅い時間までの電話対応、登下校安全指導の負担軽減は大きな課題

※業務量の膨大さによって、勤務時間の短縮は困難

※国・県に対する要望が必要

たくさんの意見やアドバイスをもらい、

…学校運営方針について、承認されました。…

◇「音声ガイド」付きの電話の早急な導入について、今回教育委員会へ意見書を提出する

◇保護者・地域と連携して、登下校指導を行うためのそれぞれの立場の実情を共有し、解決について話し合う場を設けるよう試みる

◇登下校指導の問題を校区全体の課題ととらえ、学園の会で協議する

以上について取り組むことが決まりました。

【その他の協議】

■PTA活動の状況と保護者の意識

■部活動の地域移行

■ICT活用の効果について情報共有と、意見交換

■一中生のあいさつ

■ジェンダーフリーに対応した制服の検討については、生徒との対話をとおして進めていく

第二回の協議会でじっくり話し合うことを計画し、散会となりました。

今回も、活発で発展的な討議となり、学校の進む先を示していただける会になりました。

委員の皆様には、一年間お世話になります。今後ともよろしく願っています。



本年度のPTA行事として「ふれあい親睦会」(七月十日(月)：城西地区、十二日(水)：法吉地区、十三日(木)：城北地区、十四日(金)：生馬地区)が行われました。

コロナ禍の規制緩和後、PTA行事も少しずつできる形で行われるようになってきました。

学校行事についても、すべてをコロナ禍前に戻すというよりは、必要なものを必要な形で行うようにすることを考えているところです。



私たち職員は、保護者の皆さまのご不安な点、お聞きになりたい事に出るだけお答えしようと考えています。顔を見ながらお話しすることができたので、これからは気軽に声をおかけください。こうして、私たちが顔見知りになることは、子どもたちを共に育むためにとても大切なことだと考えています。

生成AIの活用について(お知らせ)

生成AIについて、文部科学省から暫定的なガイドラインが示されていますが、その活用についてはこれから検討や実証が必要とのこと。

本校では、松江市教育委員会の指示により「コンクール」の作品やレポートなどについて、生成AIによる生成物をそのまま自己の成果物として応募・提出することは評価基準や応募規約によっては不適切又は不正な行為に当たること、活動を通じての学びが得られず、自分のためにならないこと」を生徒に指導しておりますので、承知願います。

七月十三日(木)、校内弁論大会を行いました。校内大会に先立ち、各学級で全員が弁論文を書き、日頃思っていること、自身の体験等から考えたことなどを発表しました。

そして、各学年三名、合計九名が今回の校内少年の主張大会で発表をしました。

二年 中田さん

お堀の清掃から学んだこと 優良賞

二年 飯塚さん

大切にしたいもの 優良賞

三年 鐘築さん

へアドネーションを通して 優良賞

一年 川上さん

自分のしゃべり方 優秀賞

一年 安達さん

人の目を気にしない 優良賞

三年 奥野さん

後悔しないために 優秀賞

一年 大房さん

差別をなくすために 優良賞

二年 土江さん

かげのおと 優秀賞

三年 竹吉さん

僕の弟 最優秀賞

最優秀賞の竹吉さんは、八月二十九日(火)に行われる令和五年度少年の主張松江大会に出場します。(掲載は発表順)

今回、校内弁論大会で発表された弁論は、身の回りの事柄を題材とした内容が多く、弁論文を書く機会を通して、考えが明確になったものもあつたようです。自分の苦しさを多くの人に理解してほしいという思いや、他者のために役に立つことに積極的に取り組んだり、他者から助けられてここまでたどり着くことができたことを深く理解したりするなど、いずれの弁論文も、それぞれの弁士の伝えたい事柄が十分に伝わる内容でした。

校内弁論大会は、自分の持ち合わせていない価値観を投げかけてくれる大切な機会です。ぜひ自分の考えとすり合わせてみてほしいと思います。弁士の皆さん、ありがとうございました。



生命の安全教室を実施

七月十八日(火)、松江警察署生活安全課の職員の方にお越しいただき、生命の安全教室を一年生対象に開催しました。GIGAスクール構想により、学校では一人一台のタブレットが配付されており、各教科では調べ学習やプレゼンテーション、タブレットドリルで活用しています。中学生のスマホ所持率も年々あがってきており、ネットを利用することが生活の一部となつていきます。



生命の安全教室では、被害者にも加害者にもならないためのネット利用について、どのようなことに気を付けて生活していくとよいのか、具体的な話を聞くことができました。

まず、生活の中で気を付けることとして、人間は自分の都合のいいことだけを信じてしまう脳「正常性バイアス」が働いてしまうため、①自分だけは大丈夫と思わないこと。そして、ルールは自分の身を守るものなので、②ルールを守ること。最後に、お互いが気持ちよく暮らしていくために、③自分がされて嫌なことは他人にもしないこと。④家の玄関に貼ってはいけないと思うものは、SNSにアップしないことなどを話していただきました。

また、SNSは同じ趣味を持つ仲間と繋がることのできる一方で、個人情報わかる写真を投稿することは難しいことや、大人がわいせつ目的で近づき、親しいふりをして支配してくる「グルーミング」にも触れていただきました。

困った時には一人で悩まず、教職員に限らず、信頼できる身近な大人に相談してほしいと思います。私たちは、子ども達の異変を察知できるよう、今後もしっかりと見守っていききたいと思います。